

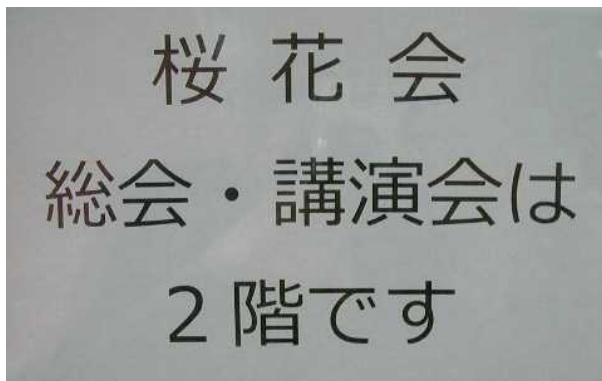
平成25年度 桜花会（応用化学系同窓会） 総会・講演会開催と ホームカミングデイ全体交流会参加

平成25年5月26日（日）14:15～14:45南4号館2階S422講義室に於いて平成25年総会を大友常任幹事の司会で開催し、三上常任幹事と岡本常任幹事から平成24年度決算と活動の報告、堤会計監事から監査報告があり、続いて大友常任幹事と岡本常任幹事から平成25年度予算と活動計画の説明があり、審議後、原案通り承認された。出席者は28名であった。

続いて15:00～16:00 に同じ会場で鯉沼秀臣先生の講演「砂漠の彼方に見る多機能基幹エネルギーと材料」を開催した。参加者は学生22名を含め53名であった。

その後、蔵前会館で開催されたホームカミングデイ関連行事の全体交流会に参加して各同窓会のメンバーと交流を深めた。

スナップ写真



南4号館会場案内



会場受付



田村新会長の挨拶



総合司会の大友常任幹事



堀尾前会長の挨拶



総会会場



事業報告をされる三上常任幹事



会計報告をされる岡本常任幹事



監査報告をされる堤監事



ご講演をされる鯉沼先生



講演会場



全体交流会会場 (1)



全体交流会会場 (2)



交流会会場 (3)



交流会会場 (4)



交流会会場 (5)

平成 25 年度 「桜花会」 総会

日 時：平成 25 年 5 月 26 日(日)午後 2 時 15 分～

総 会 (午後 2 時 15 分～午後 2 時 45 分)

場 所：東京工業大学 南四号館 2 階 S422

議題

議事進行	平成 25 年度庶務幹事	大友 明
平成 25 年度役員改選	平成 25 年度庶務幹事	大友 明
前会長挨拶	平成 24 年度会長	堀尾 哲一郎
新会長挨拶	平成 25 年度会長	田村 吉隆
平成 24 年度事業報告	平成 24 年度庶務幹事	三上 幸一
平成 24 年度会計報告	平成 24 年度会計幹事	岡本 昌樹
平成 24 年度会計監査報告	平成 24 年度会計監事	小野 嘉夫, 堤 正也
平成 25 年度役員会報告	平成 25 年度庶務幹事	大友 明
平成 25 年度事業計画	平成 25 年度庶務幹事	大友 明
平成 25 年度予算	平成 25 年度会計幹事	岡本 昌樹

平成 24 年度 桜花会事業報告

- ◎ 第 1 回役員会開催
(平成 24 年 4 月 26 日(木) 15:45~16:15 東 2 号館 501 号室 (5F))
- ◎ 新人歓迎会 (平成 24 年 4 月 26 日 17:30~19:30, 季の味ガーデン)
(補助 3 万円)
- ◎ 総会開催
(平成 24 年 5 月 27 日(日) 16:15~17:00 南 1 号館 S215 号室 (2F))
合同交流会 (17:30~19:00, 体育館)
- ◎ 桜花会誌の発行 (平成 24 年 10 月)
中林宣男氏瑞宝章叙勲記事を掲載
- ◎ 工大祭オープンキャンパス (平成 24 年 10 月 6 日(土), 7 日(日))
ポスター紹介、「くらりか」と協賛イベント開催 (340 名参加)
- ◎ 第 2 回役員会開催
(平成 24 年 11 月 6 日(火) 15:30~17:30 本館リフレッシュルーム (3F))
- ◎ 企業研究所見学会 (平成 24 年 11 月 29 日 (木))
第一三共品川研究所見学会 (45 名参加)
- ◎ 桜花会講演会 (平成 24 年 12 月 6 日 (木) 14:00~15:00)
講 師: 高橋和彦博士 (大日本住友製薬)
演 題: 「薬の創製とプロセス開発~糖尿病性腎症治療薬の開発~」
懇親会 (17:30~19:30)
- ◎ 第 4 回学生と卒業生との交流会
(平成 24 年 12 月 8 日 (土) 13:00~19:00 ロイヤルブルーホール)
参加企業: 昭和電工 (株)、丸善石油化学 (株)、古河電工 (株)、トヨタ自動車 (株)、
綜研化学 (株)、三井化学 (株)、富士フイルム (株)、花王 (株)、新日鉄化学 (株)、
三菱ガス化学 (株) (計 10 社)
(学生 71 名, 全 114 名参加)
- ◎ 第 3 回役員会開催
(平成 25 年 3 月 4 日(木) 12:15~13:00 東 2 号館 501 号室 (5F))
- ◎ 桜花会賞の授与 (卒業研究発表に対して) (平成 25 年 3 月 4 日(月))

桜花会 平成 25 年度役員

会 長 田 村 吉 隆

副 会 長 堀 尾 哲一郎

中 井 武

永 原 肇

岩 倉 具 敦

和 田 雄 二

三 上 幸 一

会 計 監 事 小 野 嘉 夫

堤 正 也

常任幹事

庶務担当 大 友 明

企画担当 山 中 一 郎

会計担当 岡 本 昌 樹

平成 25 年度事業計画

1. 応用化学コース（新2年生、新3年生）歓迎会協賛（平成25年4月26日（木））
昨年同様協賛金3万円、桜花会副会長参加・挨拶
2. 第1回役員会（平成25年5月26日（日）13:30~14:15）
総会議案審議
3. 総会（平成25年5月26日（日）14:15~14:45 東京工業大学南四号館 S422（2F））
合同交流会（16:30~18:00 蔵前ホール）
4. 桜花会講演会（平成25年5月26日（日）15:00~16:00）
東京大学新領域創成科学研究科客員教授 鯉沼秀臣先生
講演題目：「砂漠の彼方に見る多機能基幹エネルギーと材料」
5. 桜花会（応用化学系）同窓会誌の発行
6. 工大祭オープンキャンパス協賛（平成25年10月12~13日）
「くらしか」と協賛イベント開催
7. 企業研究所見学会（平成25年11月）
8. 第5回学生と卒業生との交流会（平成25年12月14日（土）ロイヤルブルーホール）
9. 卒業発表に対する桜花会賞（平成26年3月）
卒業論文特別賞2名（¥5000×2）
卒業論文優秀賞4名（¥3000×4）に図書券を授与する
役員が挨拶と授与を行う。ビアーパーティ協賛2万円。
10. 第2回役員会（平成26年3月）
平成26年度総会提案書の審議
11. 卒業祝賀パーティー共催（平成26年3月）
例年通り協賛金5万円、有志役員の祝辞を予定する。

平成 25 年度 桜花会教育奨励事業 事業計画

◎ 桜花会教育奨励事業

大学院生の国際学会での発表への援助（口頭発表 10万円/件、ポスター発表 5万円/件、6名）

前年度採択：

大友研究室 D1 増子尚徳（2013 MRS Spring Meeting & Exhibit, 口頭）100,000円支給予定

サハラで発電、日本が存在感

サハラ砂漠の再生可能エネルギー計画が転機を迎えている。
アルジェリアは、日本提唱の太陽光発電構想に軸足を移す。
砂漠の砂から太陽電池用のシリコンを作る技術に注目した。

「国力のある我々は、自由にパートナーを選べる立場にある。デザートックのようなプロジェクトに加わるには細心の注意が必要だ。歴史的な軋轢がなく、技術力を持つ日本と協力したいというのが国内の共通認識だ。こう明言するのは、シド・アリ・ケトランジ駐日アルジェリア大使だ。

デザートックは、欧州が提唱する巨大な再生可能エネルギープロジェクト。アフリカの砂漠地帯に太陽熱や風力による大規模な発電施設を建設し、欧州など近隣地域の電力需要を賄おうとする壮大な構想だ。2050年までの総投資額は40兆円とも言われる。

国土の大半がサハラ砂漠で石油、ガ

スなどの資源に恵まれるアルジェリアは、立地的にも財源的にもデザートック構想の“カギ”を握る。そのアルジェリアが現在高い関心を寄せるのが、東京大学の鯉沼秀臣客員教授らが提唱した太陽光発電計画「サハラ・ソーラー・ブリーダー(SSB)」だ。

SSBは、サハラ砂漠に無尽蔵に存在する砂から生産した結晶シリコンを太陽電池パネルに利用し、日照の豊富な北アフリカ地域で大規模な太陽光発電所を展開する構想。将来的には、超電導ケーブルを使って欧州など周辺国に送電することも視野に入れている。

最大の売りは、太陽電池用のシリコンを潤沢に確保できることなどから、低コストでの発電が可能になることだ。アルジェリアにとっては、材料やプラントなど関連産業への波及効果が大きという利点もある。

日本からは東大などが研究チームに参加し、2010年から科学技術振興機構(JST)と国際協力機構(JICA)が資金助成を始めた。アルジェリアは現在、オラン工科大学など3拠点でSSB向けに1000m²級の実験施設を建設中だ。砂に含まれるシリコン成分を高純度化する実験も始めた。

SSBには、アルジェリアの

国営電気ガス公社傘下の関連企業など複数の現地企業が参加の意向を表明。ドイツの太陽電池関連企業や、日米欧の金融機関も関心を寄せている。

周辺国でも高まる関心

アルジェリアは、民間や海外の資金を合わせ、2030年までに再生可能エネルギー関連に10兆円弱を投じる計画。だが、独シーメンスなど欧州が旗を振るデザートックに対しては、資金拠出だけを担わされかねないとの警戒感が根強く、不参加の方針だ。一方、SSBで日本と組めば、アルジェリアはシリコンの精製技術や太陽電池パネルの生産技術などを導入できるとの思惑がある。

同国の世論も変わりつつある。今年5月、現地の有力紙リベルテは、「SSBがデザートックに取って代わる」と題した記事を掲載。「デザートックを拒否した我が国の関心は、日本との共同プロジェクトであるSSBに向かっている」と論じた。

「太陽熱」から「太陽光」に軸足を移す流れは、アルジェリアに限らない。アフリカ諸国では先進国の協力で多くの太陽熱発電事業が動いているが、技術やコストの面で予想以上に問題が多く、壁にぶつかっている。SSBの関係者は「(日本と共同で太陽熱発電を展開する)チュニジアでもSSBへの切り替えを探る動きがあるほか、エジプトやモロッコでも関心が高い」と話す。

ただ、SSBにも課題はある。アルジェリアは、シリコン生産から太陽電池の製造まで一貫して手がけるため、日本の大手プラント会社やシリコンメーカーに協力を要請中。しかし、今のところ日本企業の参加意欲は高まっていないようだ。民間の資金や技術を呼び込めるかどうか、砂漠の一大構想の成否を分けそうだ。(田中 深一郎) ■



アルジェリアが建設中の実験施設(上)、SSBはサハラ砂漠の砂を太陽電池の原料にする(下)

Home Coming Day

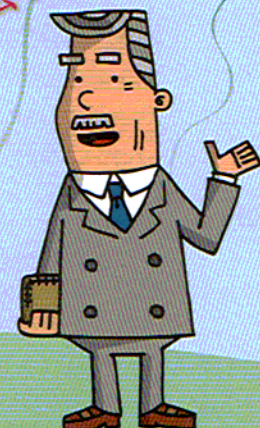
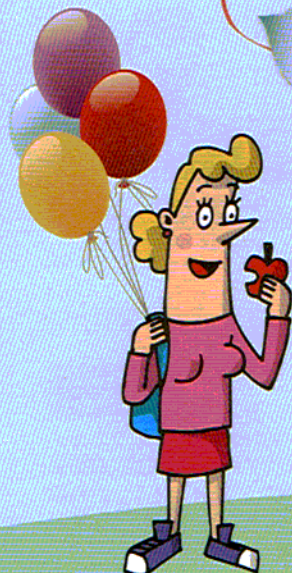
東京工業大学 ホームカミングデイ 2013

一般社団法人蔵前工業会 共催

大岡山キャンパス
2013年5月26日



ようこそ、大岡山キャンパスへ！
会いたい人に会える日。



東京工業大学
Tokyo Institute of Technology